

いずみさの昔と今 第361回

引札と暦の深いつながり

レイクアルスター・プラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、企画展「正月引札・広告印刷物に見る佐野の商店」を開催中です。今回は引札と暦・カレンダーの関係について紹介します。

江戸時代、暦は誰でも印刷でできるものではなく、一部の暦師・弘暦者だけが暦の印刷を許可されていました。そこで商店は、一枚物の暦に店や商品の情報を入れた引札を配り始めました。当時の暮らしに欠かせなかつた暦とセットにして、長く保管してもらえると考えたのです。その他にも縁起のいい絵や暦注（占いや運勢）などを書き加えたものが印刷されました。現在のカレンダーの前身といえるかもしません。

明治時代になり、明治6（1873）年、太陽暦（新暦）が導入されます。明治16（1883）年には一枚摺の略暦の発行が自由化され、引札印刷業者は略暦の印刷も行うようになります。自由化当初は江戸時代と同じく引札と暦が一枚になつたものでしたが、次第に絵柄のみの正月引札と、暦単体に分かれています。正月引札と暦單体に分かれています。

大正時代に入ると、多くの印刷業者が日めくりカレンダーを印刷するようになります。新暦

れていきます。一方で、地元印刷業者が小さな略暦を印刷し、正月引札に貼り付ける場合もあります。正月引札に貼り付ける場合もあります。正月引札が小さくなりましたが、大人気となりました。その一方で正月引札は、新暦が導入された際に、旧暦は表記されなくなりましたが、明治16年の自由化後は新暦と旧暦を併記するようになります。旧暦に基づいたお祭りや農作業が続いていたので、多くの人々にとつて、旧暦も引き続き大切な情報であったことがわかります。また新暦導入時に、暦注は非科学的であるとして削除されました。しかし、印刷自由化の頃には、印刷業者と並ぶ大手引札印刷業者であった中井徳商会があり、表」を製造し、大人気となりました。その一方で正月引札は、宣伝広告の役割を日めくりカレンダーへ譲り、ひつそりと姿を消していきました。

現在も年末年始の挨拶にカレンダーなどを配りますが、会社名を入れる形式は江戸・明治時代の引札配布の名残のようです。島印刷所と並ぶ大手引札印刷業者である島印刷所が、表」を製造し、大人気となりました。その一方で正月引札は、宣伝広告の役割を日めくりカレンダーへ譲り、ひつそりと姿を消していきました。



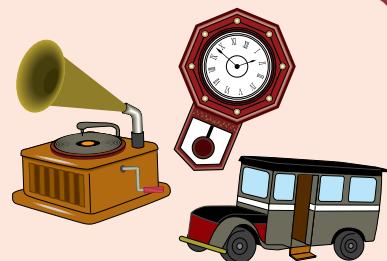
▶大正13（1924）年の
「櫻谷紙店の日めぐり
カレンダー」

レイクアルスター・プラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

⑯駅シリーズ JR 日根野駅



▶昔の日根野駅の写真（年代不明）。積み込みでいるところ。



日根野駅は昭和5年に阪和電気鉄道の停留場として開設され、昭和6年に日根野駅となり、側線を新設し、貨物の取扱を開始しました。

▼昭和61年の日根野駅周辺の空撮写真。駅前には、現在は埋め立てられた白水池や田んぼが見えます。



▲現在の日根野駅。駅前が埋め立てられたあとは、ロータリーや高層マンションなどができるています。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！